

平和宣言で引用した被爆体験談を書かれた方のコメント等

1 20歳だった被爆者（^{ふじもと}藤本 ^{ただよし}忠義さん 93歳 和歌山県和歌山市在住）

◎ 核兵器の使用は、無制限に命を奪うものであり、二度とあってはならないと思います。自らが体験した、あの惨事を後世の多くの人に伝え、世界が核兵器の廃絶に進んでいければと思います、被爆体験談を書きました。

◎ 昨年のノーベル平和賞の受賞など、世界は核廃絶の方向に向かっていますが、時間がかかっています。世界の賢人には、核兵器のない世界に向けて、核兵器の法的規制や新たな提言の発表などに取り組んでいただきたいと思います。

2 20歳だった別の被爆者（^{しみず}清水 ^{さだむ}定さん 93歳 岐阜県関市在住）

◎ 原爆投下後の広島は、口にできないほどの惨状であり、本当の地獄のようでした。核兵器を使うということは、生きとし生けるもの全ての命を奪う行為であり、絶対に繰り返してはいけないと思います。

◎ 若い世代の人々には、是非とも、被爆地である広島・長崎を訪問し、被爆の実相に触れ、核兵器の恐ろしさを理解してもらいたいと思います。

◎ 人間は、話し合い、助け合って生きていくことができる動物です。自己中心的・排他的な考えを捨て、違いを乗り越えて話し合っていくことが、戦争のない平和な世界への一番大事な条件だと思います。

※ 藤本さんの被爆体験談は平成 26 年の平和宣言作成の際に、清水さんの被爆体験談は平成 25 年の平和宣言作成の際に、それぞれ御応募いただいたものです。

（平和宣言の引用順）